

大修館英語通信

What's New!

4

April 2021
No. 1

新しい教科書は触って確かめたいくなる

特集

新教科書では
こんな英語力を身につけさせたい



特別対談 大学入学共通テストが始まった！ 福崎伍郎 × 大岩秀樹…2

特集 新教科書ではこんな英語力を身につけさせたい

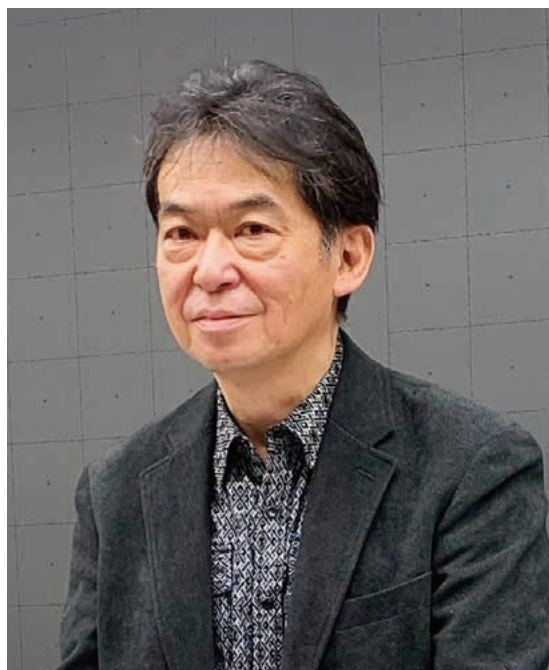
Crossroads English Communication I 村野井 仁…8 / 松尾美幸…10
PANORAMA English Communication 1 江原美明…12 / 宮田春奈…14
Genius English Logic and Expression I 田邊祐司…16 / 金丸紋子…18

大修館 BOOKSHELF 朝尾幸次郎／都甲幸治／柏野健次 … 19



上のQRコードから
[大修館書店 英語教科書特設サイト]
にアクセスできます。

大学入学共通テストが始まった！



福崎伍郎 × 大岩秀樹

2021年1月にセンター試験に代わり、新たに大学入学共通テストが施行されました。今回、代々木ゼミナールの福崎伍郎先生と東進ハイスクールの大岩秀樹先生をお迎えして、大学入学共通テストの特徴と今後の対策についてお話しいただきました。

(聞き手：編集部)

※この対談は2021年3月にZoomを通じて行いました。

——大学入学共通テストが始まりましたが、まずは全体としてどのような印象を受けましたか。

福崎：センター試験に比べてさまざまな資料や実社会で用いるようなデータを読み解いたり、与えられた情報を元にして考察するような問題が出題されました。センター試験に比べると時間に追われて解き進まなければならない「忙しい」試験になったなという印象があります。

「情報検索力」が必要になる問題が多く出題され、評価は分かれますけれども、大きな転換になったことは間違いないですね。

大岩：元々は4技能でやっていきましたというところが出発点でした。ここ数年は4技能対策の指導はしておりましたので、そういう意味での驚きはありませんでしたが、とにかく英文の量が予想よりも多かったですね。

センター試験というのはどちらかというと「勉強はこういう風にしていきましょう」ということを伝えるというような印象がありました。単語を勉強する時は発音・アクセントのこういったところがポイントだとか、文法がどのように使われているのか、文章構成がどうなっているの

かなど、自分が勉強する時にどういったことを意識しなければいけないのかを教えてくれる問題でした。一方、大学入学共通テストではそれらの知識が前提となっていて、その知識をどのように運用していくのかが問われています。そういう意味で「英語を勉強する」から「英語で勉強する」に変化したと言えます。

——情報検索力が重要ということですが、正確に英文を読む力、聴く力があればおのずとスピードも上がるのではないのでしょうか？

大岩：まずリーディングについてで

すが、指示文やリード文などを含め約5,500語を80分という時間の中で読んでいきます。問題数も38問と非常に多いので、1問1分ぐらいで解答しようとなると、大体40分程度必要になります。そうすると英文を読むこと自体には40分くらいしか費やすことができない。5,500語を40分で読むためには、1分あたり140語という速度で読んでいく必要があるんですね。そうするとそもそも2回読んで解答するか3回読んで解答するってことが想定されていない作りになっていると思うんです。

センター試験では文構造が複雑になっているところが数か所みられましたけれども、共通テストではそういうところというのはほぼ皆無。ですから、基本は1回で読んで理解しましょうと、そういう意味で情報検索という色が濃いと思うんですね。

福崎：センター試験との比較で言うと、特に読解問題の変化が顕著でした。センター試験では、第3問や第6問などで、パラグラフの構成を考えさせたり、パラグラフ単位での論点・要点を把握させたり、パラグラフのつながりを考えて長文の全体像

を捉えさせる問題がありました。一方、大学入学共通テストでは第4問が典型的ですが、スキミング力が必要な情報検索型の問題が非常に目立つようになりましたね。

——大学入学共通テストではセンター試験で出題されていた発音・アクセント、文法といった問題がなくなり、大量の英文を読む必要があります。英文法の学習も変わるのでしょうか？

大岩：それは生徒の志望校によるかと思います。例えば文法問題をバリバリ出すような私立大学を志願しているのであれば、従来型の4択問題を解くための文法演習も、もちろん必要かと思います。しかし、国公立を視野に入れる、もしくはこの共通テスト対策としては、4択問題を解くための文法というよりはきちんとした文法演習、つまり書いたり話したりするための文法演習が必要だろうと思います。例えばリーディングにおいても、やはり時制であったり、接続詞であったりというような基本文法を理解していないと解答することができないような問題が出題されているという事実もあります

し、何よりもリスニングではしっかり聞いて解答しようとする際に選択肢を素早く正確に理解する力が必要不可欠になります。そのためには語彙力・文法力がきちんと備わっていないとあの短い時間の中でリスニングの選択肢を読み取って解答していくのは非常に難しいと思います。

福崎：文法の勉強をするときには演繹的なアプローチと帰納的なアプローチがあります。演繹的なアプローチというのは文法のルールを教えて、そのルールを当てはめて問題を解いたり運用したりするってことです。一方、帰納的なアプローチというのは、いろんな活動をして、その活動の中から自分たちでルールを発見していく。どちらのアプローチにも長所・短所があると思うんですけれども、ある程度限られた時間内に効率的にルールを理解して運用していくのであれば、演繹的なアプローチの方が勝っている。帰納的なアプローチというのは、自分たちで考えて運用しながら、ルールを発見していくっていうのはすごくいい活動だと思うんですけれども、限られた時間内に全体をカバーするのは難しいと思うんです。生徒の側

表 センター試験と大学入学共通テストの語数比較

2020 年実施センター試験 外国語〔英語（筆記）〕				2021 年実施大学入学共通テスト 英語（リーディング）			
	語数		語数		語数		語数
第 1 問 A	12	第 3 問 A3	135	第 1 問 A	214	第 3 問 B	330
第 1 問 B	16	第 3 問 B	668	第 1 問 B	367	第 4 問	688
第 2 問 A	192	第 4 問 A	598	第 2 問 A	412	第 5 問	963
第 2 問 B	123	第 4 問 B	393	第 2 問 B	454	第 6 問 A	857
第 2 問 C	283	第 5 問	839	第 3 問 A	362	第 6 問 B	758
第 3 問 A1	136	第 6 問	852			合計	5405
第 3 問 A2	137						
			合計				
			4384				

※「語数」は本文＋設問選択肢の語数を表す。

の地頭^{ちあたま}も必要だし、指導する側の力量もこれまで以上に問われるのではないのでしょうか。ただ、今回の共通テストの問題を見てみると、大岩先生がおっしゃっていたように、文法的な観点では複雑な構造の文も出ないので、それほど文法をやらなくても大丈夫じゃないか、帰納的なアプローチでも十分ではないか、という意見の追い風になるかもしれません。現場の先生方は、文法の指導についてどのように感じておられるのか知りたいところです。

——では、リーディング問題に関して、実際にどのように問題を解いていけばよいのでしょうか。

福崎：第4問の間3を例に見てみましょう。これは2人の人物のメールのやり取りとグラフなどの情報を読み取り、解答を導く問題なのですが、問3は「Unless it rains, the guests will eat lunch in the 27. (雨が降らない限り、招いたゲストたちはどこでランチを食べることになるでしょう。)」と問われています。2人目の人物のメールの「We can eat under the statue you mentioned. If it rains, let's eat inside.」が該当箇所です。通常であればこの1か所で正解が得られるはずなんですけれど

も、ここで you mentioned という言い方をしているので、その statue というのはもう一方の人がどこかで言及しているはずなんです。そこを探さないといけない。そうすると1人目の人物のメールの中に「the statue in Azuma Memorial Park next to our school」という記述があります。この2つの情報を統合して初めて、選択肢2番の「park next to the school」が正解であると導くことができます。

この問題であればまだ2か所なんですけれども、例えば第4問の間2などは5か所検索しないと正解が特定できない。では限られた時間内にこのような問題をどう解けばよいでしょうか。大岩先生、いかがですか。

大岩：先ほど、リーディングでは約5,500語を40分で読む時間しかないという話をしましたが、今回のこの第4問の問題について、問1から問5まで1問1問取り組もうとすると、全部で最低4、5回読まなくてはならないという事態になってしまいます。そうすると後に続く第5問、第6問を解く時間がなくなってしまうので、英文を読み返すことなく1回で処理しなくてはならないという視点が大切になってきます。第4問についても問1から問5

までバラバラに見えるんですけども、これを大きな1つの設問と捉えて読んでいく必要があると思います。第4問のようなダブルパッセージの問題というのは、よく生徒の解き方を見てみると、1つ目の文章と2つ目の文章を行ったり来たりしながら読んで、時間をかけてしまっています。ですから、そもそもこうした文の構成みたいところから指導していく必要があると感じています。

1つ目の文章がいわゆる本文という設定になっていて、2つ目の文章が本文に対する意見や返答になっている。さらにそれがひと続きの文になっているということで、基本的には1回で読んでいくという姿勢をもちつつ、設問にあたります。選択肢が長い文章になっていないというのも1つのポイントかなと思います。

1つ目の文章の例えば1段落目を読んだときに、それが5つの設問の中のどこに該当するのか、バラバラと出てくる情報をパズルのピースをはめるようにしていきます。読み進めていく中でパズルのピースがそろった問題から解答していくということが必要になるように思います。なんでそんなことを思ったのかというと、センター試験の長文問題とい



Profile

大岩秀樹（おおいわ ひでき）
東進ハイスクール講師

大学受験を志す学生を中心に指導する一方、東進ビジネススクール講師として大学生・社会人を対象とした講座も多数担当。著書・関連書籍は『大岩のいちばんはじめの英文法』（東進ブックス）など50冊以上。

うのは設問が5問あるとすると、時々順番狂わせもあるのですが、基本的には問1から問2へ、続いて問3へと順番に解いていくことができました。

ところがこの共通テストの第4問に関しては、問5の解答が一番最初に確定します。問5の後に他の問題が解けるということに違和感を覚えたのですが、要するに1回読みを前提とした時、各問いを解くためのパーツは断片的にそろっていくのだらうなど。そういう解き方をしないと1回で読んで解答するのは難しいですし、他の問題を解く時間もなくなります。来年以降もこのような問題が出るかは分かりませんが、どのような問題が出たとしても基本的に生徒には1回しか読む時間がない、その1回で解くためにはどういう風に読んだらいいだろうという視点で学習していくことが共通テストの対策には必要になってくると思います。

——リーディングについて詳しい解説をありがとうございました。ところで、大学入学共通テストではリスニング問題の配点が増えました。日頃の指導や学習の中でどのように対策をしていけば良いのか、お聞かせ

いただけますか。

大岩：リスニングは非常に難しかったですね。特に後半は1回読みにもかかわらず英文が長く、さらに多くの情報処理をする必要があります。正直なところ試験問題を解いた時には、どうやって勉強したらこれが解けるようになるんだろうというのが、私の印象でした。

福崎：特に第5問は、非常に難しかったですね。こうした問題を解くには、対比構造などの論理展開を捉える力、詳細情報や要旨を聞き取って記憶に保持する力、そしてノート・テイキングのスキルを鍛える必要があると思います。また、普段から読書などを通じて、現代のさまざまな問題についての背景知識を広げておくことも大切だと思います。

大岩：今回のリスニング問題も、基本的にセンター試験の問題を踏襲していた部分もあったと思います。イラスト問題や、位置関係を把握する問題、第2日程で出題された計算問題もそうですが、特に注目したいのは、情報が途中で訂正される問題です。センター試験でも話者が意見をコロコロ変える問題が特徴的でしたが、このような情報が途中で大きく訂正される問題が共通テストにも引き継がれている印象を受けました。

今回でいうと第4問も、ずっと素直に聞いていくと、最後に情報が訂正されてしまいます。このタイプの問題では生徒の誤答が目立っていたため、今後の指導にあたっては、文章のなかで情報が訂正され、コロコロと移り変わっていく中で、一体何の話をしているのかという主軸を押さえ、さらに細かい情報がどう変わっていったのかというところを押さえることが大事かと思います。

福崎：生徒もそういう訂正情報を含んだ問題に対して弱いというか、苦手ですね。

大岩：苦手ですね。細かな数値は出せないですけれども、予備校の分析データなどを見ると、情報訂正系の問題は正答率が非常に低めに出てますね。

——では具体的にリスニングの問題についてどのように解けばよいのか、教えていただけますか。

福崎：では、第5問を見てみましょう。まず「状況」なんですけれども、他の問題との大きな違いがあります。ここには「あなたはアメリカの大学で、幸福観についての講義を、ワークシートにメモを取りながら聞いています。」と書かれています。ここで、大学での講義であるこ

Profile

福崎伍郎 (ふくざき ごろう)

代々木ゼミナール教育総合研究所主幹研究員

駿台予備学校、河合塾、東進ハイスクールを経て、現職。学生対象の講演の他、教員対象の研修を担当。最新の著書に『きめる！共通テスト 英語リーディング』（共著、学研プラス）がある。





3時間に及んだ対談は、お二人の先生による各設問の解法のポイント解説など、充実した内容になりました。対談の拡大版は、小社 HP よりお読みいただくことができます。

とが示されている。友人との会話とか DVD ショップでの会話ではなく、設定しているレベル自体が高いということがわかります。

大岩：さらに「ワークシート」のところは、共通テスト全般に見られる情報処理の力が求められています。問28～31では What と Where の4か所の空所を埋めていかなければならないのですが、その際に選択肢の性質に気が付くかどうかというのも大切です。選択肢は「① goods, ② relationship, ③ tasks, ④ everywhere, ⑤ indoors, ⑥ outdoors」となっていて、What に該当する部分は①～③で、Where に該当する部分が④～⑥なので、実質3択になっています。そういうところに気を付けていって、少しでも聞きながら考えるという行為を減らしていかないと、文章も難しく、話される量も多いので、聞き漏らしにつながってしまいます。設問の指示に「状況・ワークシート、問い及び図表を読む時間が与えられた後、音声流れます。」と書かれていますが、それ全部を見て可能な限りの情報処理というものを事前に終えておかなければいけない。聞く以前の情報整理というトレーニングというのを取り入れていかないと、この問題に対応するのは

難しいのではないかと思います。

福崎：センター試験では読み上げ回数が2回でしたが、共通テストは2回読みと1回読みが混在し、しかも試行調査に比べて1回読みが増えました。将来的にはすべて1回読みにすることも視野に入っていると思います。これは他の資格検定試験では1回読みが多いという点もありますが、30分という限られた時間内ですべて1回読みにすることによって、問題数を増やすことができ、それによって試験としての信頼性を上げることができるという点があります。リーディングも同様ですが、一度聞いただけで必要な情報を聞き取って理解し問題に答えられる力をつけないといけない。近い将来そうならないといけないんじゃないかと思われそうですね。

——最後に、高校の先生方にはどんな指導を心がけてほしいと思いますか。

福崎：センター試験から共通テストへの転換は、極端に言えば、アカデミックな要素の強い試験から実用的な要素が強い試験への転換と見ることができるでしょう。これについての評価はいろいろとありますが、回数を重ねるにともないバランスのと

れた成熟した試験になっていくことを期待しています。現実の問題としては、どう対策のための指導をするかということだけでなく、大学を目指し勉強をする生徒のモチベーションにどう結びつけていくかという観点も大切だと思います。それから、ゴールは決まっていますから、ゴールに到達するための指導の流れをCEFRのレベルも参考にしながら長期的な視点で組み立てる必要があります。

大岩：さらに指導において注意しなければいけない点としては、今まではセンター試験と国公立の二次試験が、ある意味で同じ方向性を向いていた試験という解釈もありました。しかし、大学入学共通テストと国公立では明らかに求められている力が違います。ですから、情報検索型の問題にアプローチするための時間と、しっかり二次試験対策をする時間と、両方とも指導するための指導計画を立てていく必要があると思います。3年生の1年間だけに詰め込むということは無理ですので、1年生、2年生の段階で生徒にも知らせていかないといけないんじゃないかなと思います。

(まとめ：編集部)

新教科書では こんな英語力を身につけさせたい

2022年度から、高校でも新学習指導要領が実施されます。これからはどのような英語授業が求められるのでしょうか。大修館書店の新教科書の編集に携わった先生方に、そのポイントを伺いました。



Crossroads

- ①十字路，交差点
- ②(人生などの) 岐路，重大な分かれ道

Crossroads English Communication I

編集代表インタビュー

「生きる力」を養うために

新学習指導要領では「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ」ることが明記されました。Crossroads English Communication I の編集代表である村野井仁先生に、今の時代に求められる「見方・考え方」とはどんなものか、お聞きしました。(聞き手：編集部)

——現在も続くコロナ禍により、学校現場ではさまざまな変化を余儀なくされています。厳しい時代の中で、生徒たちにはどんな英語力を身につけてもらいたいと思いますか？

どんなことがあってもしなやかに生きていかなければならない。そのための力を身につける必要があることをコロナ禍から私たちは知りました。まさに「生きる力」です。他の人たちと力を合わせて次々と押し寄せてくる問題を解決していく総合的な知識・技能・姿勢がいま求められています。英語力もその「生きる力」の1つなのだと思います。言葉や価値観の異なる人たちと心を通わせ、混沌とした社会を生き抜いていくための大切な力として英語を身につけてほしいと願っています。

一方で、コロナ禍で一気に進んだ遠隔コミュニケーションの浸透は英語との付き合い方を変えてくれたと思います。国境を越えなくてもオンラインで

海外の人たちといろいろな楽しいことができることに気づいた若者も多いことと思います。ICTを活用した英語学習に生徒たちが慣れたことも大きいですね。私の大学での授業ではパワーポイントスライドにリテリングや音読、模擬授業などの音声を録音させてLMS (Learning Management System) を使って提出させていますが、若い人たちのデジタル機器の操作能力の高さには本当に助けられています。

——先生方にはどんな指導を心がけてほしいと思いますか？

生徒の本当の声 (voices) が飛び交う授業を作りあげてほしいと思います。そのためには声を上げたくるような題材内容を教師が用意し、生徒たちがその内容にひきつけられるような丁寧な導入が必須です。生徒たちの興味関心をかき立てるオーラル・イントロダクション。これは定番の導入方法ですが、私はとても大切だと思っています。遠い世界の話ではなく、自分につながる話なのだという感覚を生徒たちに持ってもらうには、映画やドラマの予告のような、短くてインパクトがある口頭導入が効果的です。教師が自分で集めてきた写真や動画などの視聴覚教材を活用するのがもっとも盛り上がりませんが、教科書各ユニット冒頭の大きな写真等を活用して話を広げてい



村野井 仁 (むらのい ひとし)
東北学院大学教授

く導入も実は効き目があります。このような導入によって、題材に興味さえ持ってもらえれば、あとはスムーズです。もっと深く知ろう、もっと調べてみよう、いろいろ考えてみよう、そしてそれをほかの人と共有してみよう、そんなふうに主体的に取り組んでいく雰囲気がクラスの中にできあがるのではないかと思います。自分が調べたり、考えたことをほかの人と共有するとさらに深いところに行ける。そんな対話的な活動をうまく盛り込んでいくのも教師の大切な役割だと思います。

このような授業を展開していけば、「聞くこと」から「書くこと」まで5つの領域の技能を主体的・対話的に育てることもそれほど難しいことではないと私は考えています。何より、このような授業のいろいろな局面で生徒たちの声を聞くことができます。

——新しい教科書の書名に込められた思いを教えてください。

Crossroads は道が交差する十字路口という意味です。異なる方向から来たいろいろな人が出会う場でもあります。この教科書を使って、それまで知らなかった世界に足を踏み入れ、自分とは異なった場所や時代に生きた人々に出会ってほしいという思いが込められています。Crossroads には岐路という意味もあります。人生の分かれ道

Unit の導入は、写真を見ながらテーマについてやり取りをする活動と、テーマに関するリスニング活動となっています。



という比喩的な意味です。さあどっちに行こうかと決める際に自分の頭で考え、そして判断する姿勢を身につけてほしいという願いもこの名前には込められています。この教科書でそれまで全く知らなかった道を見つけ、新しい世界に向かって歩いて行ってほしいと願っています。

——Crossroads のイチ押しポイントを教えてください。

一見するといろいろな活動がごちゃごちゃ入っているように見えるかもしれませんが、これまでの4つのパートからなる長い英文が各単元の真ん中にとあって、pre-reading や post-reading 的な活動がその前後にちょこんと付いている教科書と比べてみると、やることがたくさんあって大変そうだなあと見えるかもしれません。しかし、じっくり見ていただくと、先生方が自分で言語活動を用意しなくても、多彩な言語活動ができるようになっているのが見えてくると思います。生徒たちが自分たちで主体的に取り組むような作りになっているので、むしろ先生方のご負担は減るのでないかと考えています。言語活動が見えるような高校英語教科書を作ろう！それが Crossroads 編集チームの方針の1つです。

各ユニットは、聞いて話す、読んで

書く、話して書く、などの領域を統合したいろいろな活動で構成されています。このように言語活動を組み合わせることによって、リーディング偏重の高校英語から脱却することをねらっています。それぞれのユニットは、「話すこと（やり取り）」の活動を引き出す What do you think? から始まり、「聞くこと」の活動である Listen Up につながります。このリスニングは次の「読むこと」の活動の導入、つまりオーラル・イントロダクション的な働きも兼ねています。Passage には「読むこと」の活動の支援として Key Words がついています。内容確認の質問は事実確認、推論など目的を持った読解を促すものになっています。読解のあとには Summary や Note-taking などの再生型アウトプット活動が続きます。プロジェクトも特徴的です。CLIL（内容言語統合型学習）的な要素をもって、本物の内容に関して調べ、考えたことを他者に「話すこと（発表）」及び「書くこと」で伝えるアクティブ・ラーニングの要素が強いプロジェクト学習を展開することができます。

これらの活動は従来だと、先生方が時間をかけて教材研究をして、プリントやワークシートを作って行ってきたのではないのでしょうか。Crossroads では、そのような活動を思い切って教

科書紙面にできる限り取り込んでしまおうと考え、このような構成にたどりつきました。使いこなすのは大変そうに見えるかもしれませんが、使ってみると長文中心ではなく言語活動中心の新しいタイプの教科書であることがわかっていただけるものと思います。

また、Crossroads には SDGs に深く関わるトピックがてんこ盛りになっています。平和、海洋資源、保健、ジェンダーなどの SDGs 目標に直接関わる題材をはじめ、異文化理解、メディア・リテラシー、ボランティア、国際文化交流など現代社会に生きる人々にとって大切なトピックで構成されています。これらの題材をもとに高校生たちがどんな考えを自分の中に形成し、ものの見方を再構築してくれるのか、編集に携わった者としては楽しみでなりません。これらのトピックが、学習指導要領で重視される「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を育て、先の見えない世界を生きていくために必要な「生きる力」を鍛えるためのきっかけになってくれればいいなと願っています。

●著者紹介

現行課程の検定教科書 *Genius English Communication* シリーズの編集代表。専門は第二言語習得論、英語教育。

Crossroads English Communication I

リスニングをメインディッシュに

松尾美幸（まつお みゆき）

岩手県立不来方高等学校指導教諭

Crossroads English Communication I 編集委員



「聞かせて答え合わせ」のリスニング指導からの脱却

自分の授業を振り返るに、リスニングは読解の導入つまりオードブル的に扱うことが多かった。リスニング活動と称して教科書本文を最初に聞かせても、元来読むための英文素材をいきなり聴解させることには疑問があった。そして読解済みの内容を確認するデザート的なリスニングで締めくくっていた。「聞かせて答え合わせ」が定番の「指導」法と信じて疑わず、それが“testing”であっても“teaching”ではないと気づいてさえいなかった。

筆者のような「聞かせて答え合わせ」からの脱却を図りたいと願う先生方の期待に *Crossroads English Communication I* は応えてくれるだろう。

実際の言語使用場面を想定したタスク形式

Listen Up 1では対話の内容を的確に把握するタスクが中心だが、Listen Up 2では、ラジオ番組や発表、講義を聞きながらの Note-taking 活動が設けられている。また、Unit 7では歴史の授業で生徒が行ったホロコーストについての発表を聞き取りながら、使用されたスライド資料を完成するタスクがある。共通テストでも要求される、実際の言語使用場面で必要な英語力を鍛える仕掛けが豊富に施されている。

聴解プロセスを大事にしたタスク

各 Unit の Listen Up 2には Pre-listening Question が設けられており、学習者たちが音声を聞く前に内容を予測し、テーマを自分ごととして捉える準備運動の機会を提供する。内容理解についても、概要把握から細部の聞き取りへと目的を変えながら複数回繰り返して聞けるよう設問に工夫が施されている。また、英語の分量、内容ともにメインディッシュとして十分に肉厚なため、Post-listening Task の充実も可能だ。

思考力・判断力・表現力を育む技能統合型タスク

筆者が実際に *Crossroads* を用いて授業を展開するならば、講義やプレゼンテーションを聞いた後に、講師や発表者に対する質問を考えさせ、質疑応答のロールプレイを行いたい。正確に情報や要点を聞き取ることも大切だが、受動的に聞くだけでなく批判的に思考しながら傾聴させ、聞き取った内容についての意見交換や質疑応答等のスピーキング活動へとつなぎたい。

Crossroads での学びを通じて、高校生たちは栄養価の高い「食材（題材・言語材料）」をバランスよく摂取し、心・頭・体をフルに動かしながら、骨太の英語力をたくましく伸ばしてくれると確信している。

CHECK!

POINT 1 充実したリスニング活動

Crossroads English Communication I は全 7 Unit 構成、Unit は 2 つの Part に分かれ、Listen Up 1 と 2 をタスクとして設定。対話文やプレゼンテーションなど、さまざまな場面・設定の音声を用意しています。

POINT 2 リスニングから表現活動へ

Listen Up 2 では、音声を聞いて終わりとにならないように、Note-taking や、ペアワークなどのタスクを設定。アウトプットにつなげることで、「聞かせて終わり」にさせないつくりになっています。

Panorama

- ①全景
- ②概観，全容
- ③多種の人々や物を集めたもの



PANORAMA English Communication 1

編集代表インタビュー

教えやすく，学びやすい教科書



江原美明（えはら よしあき）
武蔵野大学特任教授

——新学習指導要領が始まる2020年代には、生徒にどんな英語力を身につけてほしいですか？

新学習指導要領では小・中・高を通して、さらに教科を通して、指導目標や内容を3つの視点から捉えています。英語力に関しては、①音声・語彙・文法・言語の働きなどを理解して使う力（知識・技能）、②それを活用して実際の目的・場面・状況に応じてメッセージを理解したり発信したり、やり取りしたりする力（思考力・判断力・表現力）、③主体的・自律的に英語の学びとコミュニケーションの経験を積もうとする態度、です。これらの要素を踏まえながら、教壇に立つ時にもっと端的に自分に言い聞かせる必要がありますから、私なら、「相手の気持ちや考えを理解し、自分の気持ちや考えを伝え、人と協力して生きるために役立てることができる英語力」を身につけてほしい、と自分に念押しします。

——コロナ禍を通じて、世界中の人々がこれまでの価値観を問い直すことになりました。これからの世界を生きる生徒にどんなことを学んでいてほしいと思いますか？

私自身いつも悩みながら生きてきたので偉そうには言えませんが、生きるというのは、何らかの形で働いて社会

貢献をし、その対価として自分や家族の生活に必要なものを手に入れることだと思います。世の中は人々の協働で機能している。世界にはそういう社会体制が整っていない地域もあれば、日本のように努力すれば人に認められ仕事を得られる社会もある。そういったことを含め、教科書をはじめとする英語のメディアを通し世の中のことを学び、規模の大小はあるけれども、人の生活を豊かにしたり幸せにしたりする仕事には何があるか、自分に何ができるかを考え、学んでほしいと思います。何かを学んだら、What should we do then?という問いを自分に投げかける習慣をつけてほしい、そして簡単な表現でもよいから仲間と英語で話し合い、話し合いから考えを深める方法を学んでほしいと思います。

——先生方にはどんな指導を心がけてほしいと思いますか？

意味中心のコミュニケーションな活動と英文の構造を分析的に捉える活動は二項対立的に捉えられがちですが、私は両方必要だと思っています。「話し手（書き手）の意図」「言葉を使う目的」を意識した上で、いろいろな学習活動が英語の習得には必要です。また、教員研修で多くの先生方と接した経験やデータから言えるのは、先生自身が英語や英語で学ぶ内容に興味を持

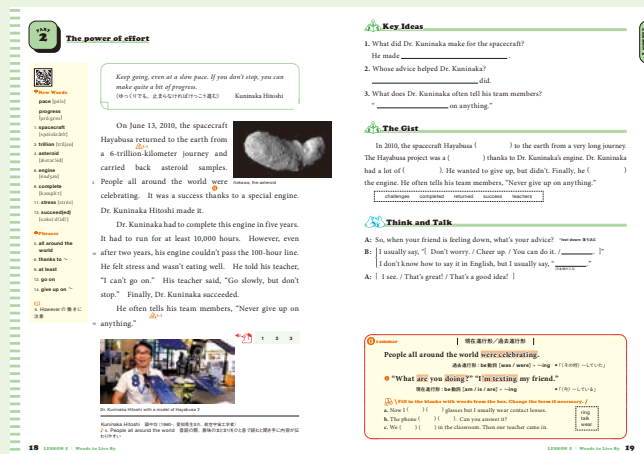
ち、生徒に自己表現の機会を与えるような授業をすることが、生徒のやる気を高めるということです。ただ最近は本当に学校が忙しい。だから、うまく工夫して、自己充電の機会を確保しながら、教師としてのやる気を維持してほしいと願っています。*You are the average of the five people you spend the most time with.*という言葉がありますが、同僚と協力し励まし合うことも重要ですね。

——大学入学共通テストが始まりました。率直な印象をお聞かせください。

現行学習指導要領に沿って、CEFR A1～B1相当の問題を出題する、という方針通りの内容だと思います。具体的な生活場面と関連づけられた英語への慣れや、翻訳ではなく概要・要点の迅速な理解を促す指導が求められます。ただし、瞬時の処理ができるためには、まずきちんとゆっくり英文を理解する学習が必要ですし、そもそも英語学習に生徒の興味が向かなければ英語力は身につけません。共通テストのためだけに指導をするのではなく、現実生活場面での英語を身につけることと生徒の興味を引く題材や内容を英語で学ぶことのバランスをとることが大事だと思います。

——新しい教科書 PANORAMA の書

Lesson 1 Words to Live By では 3 人の人物の名言とその背景にあるエピソードを読み、人を励ます言葉の力を考えます。



名に込められた思いを教えてください。

何回か会議を重ねてたどり着いた名前です。皆で話し合う中で、日本を含め世界で何が起きているか、人々が何を考えどんな努力をしているかについて、内容をイメージしながら、思考を深めながら、英語を学べる教科書にしたい、ということがこの *PANORAMA* の書名に込められていきました。この書名に相応しい素敵な写真やイラストが本文理解を助けてくれます。

——ひとことかというと、*PANORAMA* とはどんな教科書ですか？

ひとことで言えば、「テキストで学んだ知識や表現を自分のものにする活動や、具体的な目的・場面・状況で英語を使う活動を通し、生徒の皆さんが着実に英語力を高め、夢に向かって努力することができるよう応援する教科書」です。

私は、言葉の学習は、他の人の言葉を自分の言葉にするプロセスだと考えています。友人、先生、教科書、本の著者など、さまざまな人のメッセージとそれを伝える言葉を、好奇心や感動、時として意見の対立などを通し、心が動く体験をしながら英語を学んでほしいと思います。

——*PANORAMA* の編集で心がけた

点、ここは *PANORAMA* の推しというポイントを教えてください。

先生方が指導しやすい教科書、そして生徒にとって学びやすい教科書を作ることが心がけました。生徒が繰り返し行う価値のある活動が示されているかどうかでも重視しました。特に、
1. Action-oriented Goal Setting
何ができるようになればよいか、という具体的なゴールを各課に設定し、CEFR に準拠したゴールタスクを用意しました。教科書の本文で世の中のトピックについて学び、課末では具体的な場面での英語活用力を身につけられるようにしました。

2. Teacher-friendly Lesson Design
新学習指導要領に準拠した指導を無理なく行えるよう、リスニング、概要・要点の理解、サマリー、簡単なやり取り、文法チェック、リテリング、短文作文、実際の場面を想定したタスクなど、日々の授業で4技能5領域の育成を総合的・統合的に行えるような各課の活動の流れを設計しました。

3. Logic and Frames for Communication
英文理解には論理構造の基本を、英語での自己表現にはよく使われる表現の枠組（定型表現）を学ぶ必要があります。こうした「型」を繰り返し学んだり使ったりしながら、徐々にそれを自分のものにし、自分の力で英文を理解し、本当に自分の言いたいことが言

えるよう、支援しています。地道な努力が1年で大きな成果を上げるはずですよ。

その他にも、豊富なリスニング活動や、巻末の「文法を使って話してみよう」、重要ポイントを的確にとらえたコラムなどもきっとお役に立つと確信しています。

——イチオシの教材を教えてください。

私にとってはすべてのレッスンが「イチオシ」教材ですが、まず、Lesson 1 で生徒に、「言葉の力」の大切さを学んでほしいなと思っています。英文は、日本の中・高・大学で教育経験が豊富な英語母語話者の先生方に書き下ろしていただいています。細部にいたるまで言葉にこだわり書かれています。7人の著者と大修館書店編集部、そして現場の先生方の声の集大成が *PANORAMA* です。是非ご活用いただければ幸いです。

——どうもありがとうございました。

●著者紹介

神奈川県立外語短期大学准教授、国際言語文化アカデミア教授を経て、2021年4月から現職。Compass English Communication シリーズ編集委員。研究分野は外国語としての英語学習方略、英語教員研修など。

PANORAMA English Communication 1

ターゲットタスクにつなげていく授業展開

宮田春奈 (みやた はるな)

神奈川県立七里ガ浜高等学校教諭

PANORAMA English Communication 1 編集委員



PANORAMA English Communication 1には、高校生だけでなく先生方にも興味を持っていただけるような様々なジャンルの話題が取り入れられています。前半は偉業を達成した人たちの言葉や、猫の秘密、未来の職業について考えたり、後半は顔の表情を扱ったコミュニケーションをテーマにしたものや、環境問題に至るまで、豊富な写真やイラストとともに幅広く取り上げられています。

本稿では、海外に留学中の日本人の高校生 Aya が留学先で日本の米文化や世界の米文化についてプレゼンテーションする設定の、Lesson 5を使った授業の展開をご紹介しますと思います。

このレッスンでは世界の米料理のカラフルな写真がたくさん使われています。導入では、教科書の写真を使って、具材などの見て分かることや、どこの国の料理なのか既に知っていることについて発言させたり、さらに自分の好きな料理について生徒同士で伝え合わせるなどして話を広げていき、生徒の興味を引きだします。

このレッスンのターゲットタスク (Test Your Skills) は、「おすすめのレストランや食べ物を紹介する」という話す活動 (発表) なので、そこへ向けて本文の食べものや食文化についての説明を読んで、内容理解をしながら生徒は言語材料を学んでいきます。本文がプレゼンテーション形式になって

いるので、発表の場で使えるフレーズを生徒たちに音読やリスニング活動で定着させます。例えば “Hello, everyone. I'd like to talk about” や “Look at this photo.” などのフレーズは、ポストリーディングの活動で発表する際に使用する言語として取り上げ、生徒に学んだことを実践で生かせる機会を与えます。

授業では、本文で一人称で語る Aya のプレゼンテーションを聞いているという場面を設定して、教員はメモ形式のプリント等を用意して、聞き手として生徒たちに必要な情報を聞きとらせたり、プレゼンターの意図が理解できているか英問英答で確認していきます。

次に、Comprehension Check のグラフィック・オーガナイザーで読解や発表、ライティングなどのアプローチとして大切な「事実」と「意見」の区別について整理した後、リテリングしたりペアワークで確認したりします。

この活動で「事実」と「意見」の整理を生徒同士で意識させて、ターゲットタスクの発表では、「事実」と「意見」を効果的に取り入れて論理的な発言ができるようにつなげていきます。

PANORAMA 1はレッスン目標が明確なので、生徒の様子を考慮しつつ、ターゲットタスクにつながる授業を私自身も楽しみながら組み立てられます。

CHECK! ゴールをめざして段階的に着実に学力がつく教科書

- POINT 1 使いやすい：リーディングを軸に 4 技能 5 領域の統合を目指す見開きパート構成
- POINT 2 見渡しやすい：ゴールとプロセスを明示してレッスンで身につく力が一目瞭然
- POINT 3 スパイラル：既習事項をくりかえし使い、段階的に着実に学力がつく
- POINT 4 身近から世界へ：高校生が話題にしやすい世界に視野を広げやすい教材・トピック



Unit 1. Introducing Yourself

Mark.

movies ver.

favorite actor

appears in many

very Potter series

talented and

do you like?

Through

① Hello.

② I'm Lisa.

③ I'm from Kobe.

the movies.

favorite actor is Jim

appears in many movies

and Yes Man.

always makes me laugh by

do you like?

make O.O

Genius

English Logic and Expression 1

TAISHUKAN

Animal: Cat, panda, rabbit.

book: Ellen, Queen

writer: Henry James.

subject: Japanese Language

Art

Sheeran, Billie Eilish

Freya

Sports: basketball

Naomi

Naomi

ansai, Lake E

picked Japanese

(bread) roll

mayonnaise

About This: Iceland, Yucca

Shiga

I can't

direct

as the

My

I watch

video

song

is interested in

the Internet. He lives

plays the piano

reads books

Icelandic

Genius

①極めてすぐれた才能

②守り神, 守護神

Genius English Logic and Expression I

編集代表インタビュー

身近な場面設定で 英語を使うために

新学習指導要領では「論理・表現」が新しく科目設定されました。Genius English Logic and Expression Iの編集代表である田邊祐司先生に、新学習指導要領で身につけてほしいこと、教科書に込めた思いについてお聞きしました。(聞き手：編集部)

——来年度から新学習指導要領が始まります。2020年代には、生徒にどんな英語力を身につけてほしいですか？

あくまで個人的な見解ですが、高校卒業までに限定して言うなら、「逃げない英語力」を最低限、身につけてほしいですね。英語で突然、話しかけられたり、英語のメールやSNSを受け取ったりしたときに“No English!”などと言って逃げを打つのは、もう昔話にしたいと思います。

——長期間引き続くコロナ禍を通じて、世界中の人々がこれまでの価値観を問い直すことになりました。これからの世界を生きる生徒にどんなことを学んでほしいと思いますか？ また、先生方にはどんな指導を心がけてほしいと思いますか？

何があるのかわからない、先の読めない時代と言われていますが、教育ではそれが新型コロナという形で突きつけられた格好になったと思っています。

す。

これから生徒が生きて行く世の中は問題解決や選択の連続です。教科を問わず、個々人が自分でしっかりと考え、問題などに立ち向かえるようになるための手立てを学校教育では学んでほしいと思いますし、我々もそうした社会に開かれた教育を心がけることが肝要だと思います。

また、先生方が校内分掌や部活動で多忙を極めていながら、授業に腐心されているのには頭が下がります。しかしながら、時代が変化し続ける以上、先生方も常にその変化に対応し続けなければなりません。

本分の授業でもこれは同じです。アメリカの作家、教師であり、牧師でもあったWilliam Arthur Wardの言葉にThe mediocre teacher tells. The good teacher explains. The superior teacher demonstrates. The great teacher inspires. というものがあります。昭和から平成までは教師が説明する(explain)ことや範を示す(demonstrate)ことが重要視されてきましたが、令和の時代にはinspire、つまり生徒の心に火をつける指導がよりいっそう求められると考えています。やり方は1つである必要はありません。先生方それぞれの強みを生かしながら、生徒に主権を与え、思考させ、発見させるような指導を心



田邊祐司 (たなべ ゆうじ)
専修大学教授

がけてほしいと思います。

——2021年には、大学入学共通テストも始まりました。率直な印象をお聞かせください。

ざっと見た程度のコメントで恐縮ですが、共通テスト前の事前の予告通りの内容に沿ったシフトが行われ始めたかと捉えています。

英語科ではTOEFL®式の多量の問題を処理するものになりました。リーディングでは設問の数が少なくなったように一見見えますが、その分、相当量の情報を素早く、正確に読み取り、自分で思考し、判断する形式になったと思います。

膨大な知識を持っていることが大学入学への「手形」とされた時代から、そういった知識をいかに活用するかのテストへのシフトが始まったなと実感しています。

——新学習指導要領で新しく科目設定された「論理・表現」で求められることはどんなことでしょうか。また、英語の授業がどう変わっていくのかについてお聞かせください。

Big questionですね(笑)。「論理・表現」では自分の考え方や意見をきちんと人に伝え、時には人を動かすようなライティングやスピーキングの基盤となるフレームワークの形成が求めら

複数の Model 文を通じてターゲット文法やトピックでよく使われる表現、話題の展開の仕方を学んだあと、それらを活かして実際に自分で表現する言語活動を行います。

れています。例えば、I want to be a teacher. という場合、なぜ、そう思うのかを伝える情報を付加しないと、真の意味での発信にはなりません。つまり、日本式のフレームワークに沿って、日本語の構造に英単語を当てはめるだけのライティングやスピーキングではいけないのです。英語圏の standard にのっとった物の見方、考え方、そして表現の仕方を学び、日本式フレームワークとの違いを実感させることが、英語科ではできるはずです。

「論理・表現」では何よりもまずはそうしたフレームワークを学ぶことが求められます。

さて、「英語の授業がどう変わるのか」です。英語には「将来を占う」という意味の gaze into one's crystal ball というイディオムがありますが、私の crystal ball には正直、はっきりとした未来はまだ見えていません。しかしながら、戦後最大の教育改革と言われているなか、小・中・高の学習指導要領に共通して示されている「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ」という目標を生徒が実践するようになり、彼らが英語を使って何ができるようになるのかということを意識し始めるのなら、crystal ball には明るい光が見えてくるのではないかと期待しています。

——新しくできた Genius English Logic and Expression I のポイント、編集で心がけた点などを教えてください。

まずは「場面設定」です。学習指導要領にも「目的や場面、状況などに応じて」とあるように、すべての Unit に生徒が身近に感じられる場面を設定しました。そして同時にトピックも英語を使わなければならない必然性のあるものにしました。また、1つの話題に対して複数の意見（視点）に生徒が触れられることも意識しました。

Model を複数にしたのは拠り所となる英文のパターンを増やすためだけでなく、先ほど述べましたように多様な意見を踏まえた上で自身の考えをさまざまな角度から表現してもらいたいと考えたからです。

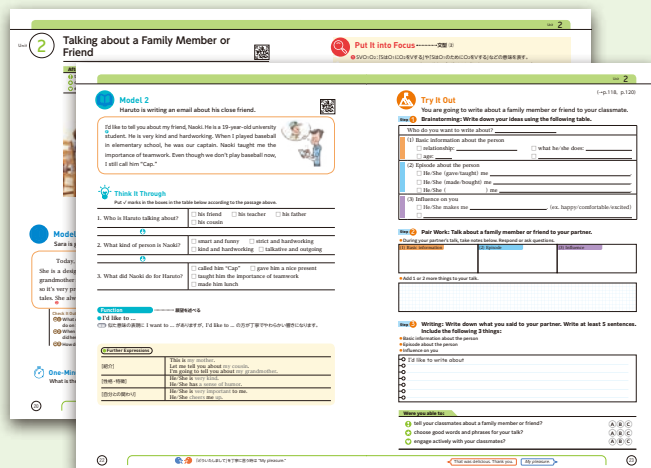
加えて、文法と機能とタスクの連動も心がけました。これまで生徒は文法ルールを数学の公式のように覚える傾向がありました。その結果、特定のルールがコミュニケーション上、どのような機能を果たすのかということに注意が向かないことがありました。例えば、現在完了の継続用法で、Mika has lived in Fukuoka since 1999. という場合、「住み始めたのは1999年で、今も住んでいる」という情報以外に「これからどうなるのかは分からない」という意味合いを伝える機能があ

ります。こうした言葉の運用ルールである「文法と言葉の機能」の両方を押さえて、Unit の最後にある言語活動（Try It Out）に取り組むことで、場面に適合した表現を身につけてほしいと思います。論理面では英語にあるロジックのフレームワークを文法を使った練習問題（Work It Out）などの活動を通して少しずつ自分たちのものにできるように工夫しました。

以上のように、Genius English Logic and Expression I では何よりも自分が主体となり、クラスメートと対話をして考え、自分で学びとっていく内容になったと確信しています。

——これから新学習指導要領の下で指導にあたる先生方にひと言お願いします。

先ほどの crystal ball と矛盾するかもしれませんが、現在の高校生が社会に出て活躍するであろう2040年までには、グローバル化はさらに深化しているということだけははっきりと言えます。その頃には英語は「できるヤツに任せておけばよい」という旧態依然たる発想は通用しなくなっているでしょう。国民1人ひとりの英語コミュニケーション能力を伸ばすことは日本の将来を左右するという気概をもって英語指導にあたっていただきたいと思います。



Genius English Logic and Expression I

Teacher-friendly な教科書で Student-friendly な学びを実現 —— 1 つひとつの活動を『できた!』に繋げる

金丸紋子 (かなまる あやこ)

カリタス女子中学高等学校教諭

Genius English Logic and Expression I 編集委員



アウトプットに向けての授業の展開

論理・表現の授業、その最終ゴールは常に生徒のアウトプットにある。各 Unit の最後のセクション (Try It Out) で、与えられたトピックや状況の中で生徒が自分の考えやアイデアを自分の言葉で伝えることができるようになるために、Genius はとても丁寧なステップを組んでいる。まるで小さい子供が三輪車から、補助輪付きの自転車、そして最後は 1 人で自由に自転車に乗り移動することができるような、そんな自然な流れとサポートが各 Unit にある。つまり、生徒にも、教師にとっても、教科書に沿いながら進める中で、内容を組み立てる順や、表現方法を身につける「達成感や面白さ」を余計な負荷なく体験できる仕組みである。Unit は 4 ページ構成になっており、最初の 3 ページはウォームアップから始まり、トピック・状況に合わせた Model (2 種類) のインプットに触れて表現力を磨き、4 ページ目はアウトプットの活動に挑戦する流れである。

指導のポイント

①各箇所のねらいを心に留めながら授業を。視覚的情報や生徒の既存の知識を引き出す Describe the Picture や、One-Minute Chat で関連トピックについて自由に語る箇所では、

あまり文法やつづりに注目させるよりは、ウォームアップとしてこの課での学びに生徒の意識を向かせることに重点を置きたい。Model 1 や Model 2 では、話題や文脈に合った表現や、アウトプットの展開の仕方を理解することに焦点を置いている。最後の Try It Out は、Model を参考にしつつ、Put It into Focus や Work It Out で注目する文法・語法を自分の表現活動の中で実際に使ってみることが目標である。各箇所のねらいを意識することで、論理・表現の科目が目標とするアウトプットスキルを塩梅よく伸ばしていくことができる。

②学校(教室)だからこそできる学びの提供を。生徒が「1 人で」「パートナーと」「グループで」取り組む活動の機会が教室に多く生まれることをぜひ楽しんでほしい。「主体的・対話的で深い学び」に焦点を当てた学習指導要領の改訂に伴って、本教科書は、上記のような学びを自然な流れで体験できるように各ステップの指示文や構成に工夫がされている。ぜひ教室では教師はファシリテーターとして、生徒の協働的なやり取りを見守りながら授業の舵取りをしてほしい。

③振り返りは主体的な学習者へのカギ。各 Unit の最後に Unit の目標の達成度を評価する箇所がある。ぜひ時間を取り、これまでの取り組みの過程を客観的に自分で見つめさせる機会を作りたい。自主的な学習に向かう意識の変化はこういった小さな仕掛けの重なりで生まれるからである。

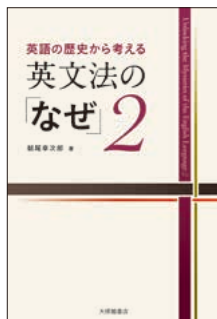
CHECK!

POINT 1 インプットからスムーズなアウトプットへ：Unit は授業のねらい・流れがわかりやすく構成されています。各 Unit 末では、学習した言語材料を「目的・場面・状況」に応じて活用しながら言語活動を行います。

POINT 2 コミュニケーションにつながる文法力の育成：文法事項を自然な文脈の中で使えるよう、ターゲット文法に合った Unit トピックを設定しています。

POINT 3 豊かな内容の表現活動：「やり取り」「発表」「書く」活動をバランスよく配置。生徒が関心をもって取り組めるよう、さまざまな形式の活動を用意しています。

自著紹介



四六判／208pp.
定価1,980円（税込）
ISBN：978-4469246469
2021年

『英語の歴史から考える 英文法の「なぜ」2』

朝尾幸次郎 著

“Are you finished?” と言うのはなぜ

“Are you finished?”（もう終わりましたか）は英語でよく使われる表現です。小学校英語教科書にも使われています。レストランで店員がテーブルからお皿を下げる時、客にたずねることばでもあります。

ところで、これは文法的にどのようにとらえればいいのでしょうか。受け身にしてはおかしな言い方です。実はこれはアイルランド英語由来の言い方です。英語に〈be+過去分詞〉で完了を表す言い方があります。今では古風な文法ですが、アイルランドでは現在も使われています。“Are you finished?” もその例で、これがアメリカ英語に広まりました。

このようによく目にするのに「どうして」と問われると答えに詰まる文法があります。しかし、わけを知ればあっけないものです。本書は2019年刊行の『英語の歴史から考える英文法の「なぜ」』の続編です。しかし、本書だけでも独立してお読みいただけます。映画や小説に現れる文法の謎解きを通して、現代英語の成り立ちを描いた英文法物語です。

（元立命館大学教授 朝尾幸次郎）

自著紹介



四六判／224pp.
定価2,420円（税込）
ISBN：978-4469213829
2020年

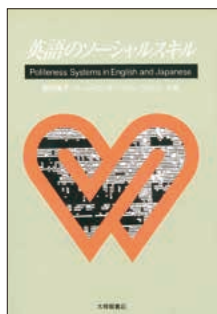
『引き裂かれた世界の文学案内 境界から響く声たち』

都甲幸治 著

「自分」を知るための文学案内

人間はみな違う。肌の色、目の色、生まれた国、所得階層。それらによって人生は大きく変わる。時には対等な相手として扱ってもらえないこともある。それでも全ての問題を自分のせいだと思って努力し続けたらどうなるか。結局は自らを責め続け、自分も周囲の人々も傷つけるだけだろう。この本ではアメリカ文学を中心に、フランスや日本の小説も読みながら、人間とは何かについて考えていく。ユダヤ人だというだけで、当然の権利を奪われ死に直面するフィリップ・ロス『プロット・アゲンスト・アメリカ』の主人公。白人ばかりの大学で周囲に認められたいばかりに酒を飲み、騒ぎ回り、ついには命まで失うジョイス・キャロル・オーツ作品のラテン系の青年。こうした人々の裏側には、とてつもない悲しみがある。孤独な戦いに挑み敗れ去る彼らの中に確かにある強さを見ることで、日本に住む我々もまた、自分らしく生きるための力を与えられるだろう。僕は彼らの姿から大きな勇気もらった。

（早稲田大学教授 都甲幸治）

再読
この1冊

四六判／270pp.
定価1,540円（税込）
ISBN：978-4469241006
1988年

『英語のソーシャルスキル』

鶴田庸子、ポール・ロシター、ティム・クルトン 著

「ポライトネス」に関する名著

本書は33年前の出版であるが、未だ色あせない「ポライトネス」に関する名著である。「まえがき」にあるように、英語と日本語では「何を丁寧と考えるか」は同じではなく、そのため、英語を使う際には文法だけでなく、「どの場面でどのように言うのか」に注意を払う必要がある。

刊行当時に私が読んで特に衝撃を受けたのは、次の2点である。

- ▶ Will you ...?/ Would you ...?/ Would you mind -ing ...? は強制力の強い表現（つまり、指示）で Can you ...?/ Could you ...? は遠慮した表現（つまり、依頼）である（pp. 90-91; p. 105）。
- ▶ Will you ...?/ Would you ...?/ Would you mind -ing ...? は、please を付けて表現を柔らかくしても、「口調は丁寧だが、きわめて押しつけがましい」ことに変わりはない（p. 105）。

これは非常に重要な指摘である。この点についてさらに詳しくは、拙稿（『英語教育』2019年12月号の Question Box 欄）を参照されたい。

（大阪樟蔭女子大学名誉教授 柏野健次）



▲詳しい情報は
こちら

高校生向け 英和辞典の決定版！

英語学習を支える**3**つの軸

1/ 日々の単語学習の軸として

- ▶ 語義ツリー……………語義の展開を視覚的に表現
- ▶ イメージ図……………前置詞の意味を図解
- ▶ **使い分け**……………混同しやすい表現の違いを解説

2/ 受験勉強の軸として

- ▶ **Question Box**……………英語への疑問を丁寧に説明
- ▶ **語法**……………高校生に必要な情報を精選
- ▶ **Typical Mistakes 100**……………よくある間違いを○×で(巻末)

新機軸

3/ 実践に役立つ英語の軸として

- ▶ **コロケーション**……………よく使う単語の組み合わせ
- ▶ **チャンク**……………英会話で使える表現
- ▶ **Let's Talk in English!**……………発信に役立つ表現(巻頭口絵)

辞書引きをサポートする
無料アプリ



ジショサポ
対応

- ▶ 巻頭カラーページ、「チャンク英会話」対応
音声フラッシュカード
- ▶ 「Typical Mistakes 100」対応
○×ドリル

…ほか、発信力アップに役立つコンテンツをご用意します！

収録項目
約**75,000**

和英小辞典収録項目
約**25,000**
[総ページ数125頁]



アクシス ジーニアス 英和辞典

AXIS Genius English-Japanese Dictionary

[編集主幹]
中邑光男

●B6変型判・2,208頁
2色刷・函入
定価3,300円(税込)

大修館英語通信 What's New!

2021年4月20日発行 第1号(創刊号)

編集人：『大修館英語通信 What's New!』編集部

発行人：鈴木一行

発行所：株式会社 大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1

電話(03)3868-2293(編集部) / (03)3868-2651(販売部)

[出版情報 URL] <https://www.taishukan.co.jp>

[振替] 00190-7-40504

表紙・本文デザイン：CCK

表紙イラスト：オザワミカ

写真：河西 遼

印刷・製本：文唱堂印刷株式会社

〔本誌のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。本誌を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。〕